

基本的方向性		I 健康を支援するコミュニティの実現									
取組分野		1 社会的つながり(ソーシャルネットワーク)					《 》については、参考値であり、計画策定時と比較するものではありません。				
評価指標		計画策定時	H30参考	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	目標値			
健康に気を付けている人の増加(20歳~64歳)		82.2%※1	《参考90.4%》※3	《参考87.8%》※3	—	—	—	85%			
地域活動参加の割合の増加(65歳以上)		63%※2	《参考58.3%》※3	68.6%	—	—	—	80%			
データ抽出元 ※1:健康状況アンケート調査 ※2:日常生活圏域二週調査 ※3:市民健康診査及び特定健康診査問診票											
重点目標 <人とつながりながら健康づくりへの関心が高まる>											
基本施策 ○市民がより健康づくりに取り組めるようにするための情報発信及び相談体制の整備 <span style="color:red">【文言の省略】新型コロナウイルス感染症=感染症</span>											
市の主な取組(事業名)		目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課評価	課題及び今後の対策(方向性)	
取り組みの目的			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 各種健康教育、健康相談の実施											
a) 生活習慣病予防に関する健康講座等		指標	「未病」に関する講座の参加者数(人)					B	感染症拡大防止を行いながら、未病センターを活用した健康講座や健康相談会を実施し、「未病改善」の普及啓発に努めていく。	健康づくり課	
目的:「未病改善」を知る人を増やす 内容:市内3か所に未病センターを設置し、未病センターで健康に関する普及啓発を実施		目標値	240	240	240	240					
		実績値	182	47	60						
b) 幼小中PTA向け出張講座(食事・運動・こころ)		指標	講座アンケートで「健康はだの21」知っている割合(%)					B	新規の実施校数を増やすため、年間予定に組み込むよう、引き続き、前年度中に案内を学校へ送付する。また、若い世代をターゲットとし、家族ぐるみで健康意識が高まるような講座内容を検討し、健康づくりの情報も発信していく。	健康づくり課	
目的:若い世代で健康づくりへの関心が高まる人を増やす。 内容:幼稚園・こども園・小・中学校のPTA向けの講座を実施		目標値	50	50	50	50	50				
		実績値	38.0	45.7	54.5	54.8					
c) 高齢者向け出前講座		指標	出前講座の延参加者数(人)					B	昨年度に引き続き、感染症拡大防止のための活動を再開する団体もあつたが、コロナ禍でも少しずつ活動を再開する団体も増えてきている。引き続きフレイル予防の視点を取り入れた講座を重点的に行っていく。	高齢介護課	
目的:介護予防に関心がある高齢者を増やす。 内容:老人クラブや自治会などの活動の場に出向き、健康講座、介護保険制度や健康づくり、認知症予防の講座を行う。		目標値	3,700	3,900	4,100	4,300	4,500				
		実績値	4,095	4,207	1,880	2,478					
イ 若い世代への健康情報の発信		指標	がん検診の全電子申請の数(件)					A	乳幼児健診や幼稚園・保育園の全保護者やPTA対象の講座等でもリーフレットを配布し、新規申込みを対象とした若い世代に向け、電子申請による検診の申し込み方法について、情報発信に努めていく。	健康づくり課	
目的:SNS等を活用して、若い世代の人が容易に健康情報を得られる 内容:QRコードや電子申請等の体制整備		目標値	1,000	1,200	1,400	1,600	1,800				
		実績値	1,435	1,415	2,107	1,618					
ウ 各公民館での講座の開催		指標	公民館自主事業参加者数(人)					B	公民館自主事業は、講師の負担の課題や内容、周知方法について充実していくことが課題。また、令和4年度からは、高齢者向けのスマートフォン体験講座などデジタルデバイドの改善に向けた事業に取り組むとともに、新型感染症対策として、規制を緩和した自主事業(人数制限など解消)、公民館まつりの開催などにより、参加者の増加を見込む。	生涯学習課	
目的:市民が教養の向上、健康の保持・増進及び社会参加をする。 内容:各公民館での健康づくり事業や講座の開催		目標値	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000				
		実績値	45,545	49,164	6,456	12,533					
市の主な取組(事業名)		目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課評価	課題及び今後の対策(方向性)	
内容			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 大学との協働事業の実施											
a) 東海大学体育学部との協働による運動講座		指標	運動講座参加者数(人)					B	感染症拡大状況を鑑みながら、次年度以降協働して事業を進めていく。	健康づくり課	
目的:若い世代へ学術的根拠をもとにした健康づくりの普及啓発を行う。 内容:東海大学と協力して講座を開催		目標値	30	30	30	30	30				
		実績値	35	24	56	—					
b) 高齢者を対象とした東海大学体育学部との連携		指標	体力測定会参加者数(人)					D	感染拡大により、これまでとは異なる体制で実施を試みたが、多くの人員が必要な本事業の開催は困難だった。今後は、高齢者の運動継続の場として、通いの場の拡大といった形に移行していく。	高齢介護課	
目的:高齢者が自分の体力に合った運動を継続する。 内容:通いの場(体操実施団体)に出前講座を行う。地域における介護予防の取り組みを強化するため、地域リハビリテーション活動支援事業の打合せを実施。委託事業として体力測定会と結果説明会を開催。		目標値	400	400	400	400	—				
		実績値	400	427	0	20					
イ 健康増進事業計画推進協議会との協働事業の実施		指標	健康づくりイベントの協働開催数(回)					B	感染症の状況を鑑みながら、秦野市健康増進計画推進協議会と協働し、コロナ禍において「健康はだの21」を普及啓発する機会を検討する必要がある。	健康づくり課	
目的:地域の団体から推薦された健康増進計画推進協議会(市民代表)が普及啓発を行う。 内容:健康づくりイベントを実施し、活動を支援する(春風ウォーク、たばこ祭、健康フェスティバル)		目標値	3	3	4	4	4				
		実績値	3	3	—	—					
ウ 地域での体操会の開催		指標	さわやか体操を行う市内体操会の数					B	休止中の「ラジオ体操会」について、次年度開催予定の「さわやかマスター養成講座」をきっかけに、再開を目指して準備していく。約2年間、さわやかマスターの活動の場が少なかったことから、活動意欲の維持向上に向けて、支援を行っていく必要がある。	健康づくり課	
目的:地域で、人とつながりながら健康づくりを継続する「体操会」の参加人数を増やす。 内容:さわやかマスターが中心となり、体操会を定期的で開催		目標値	12	13	14	15	16				
		実績値	12	11	10	10					
エ さわやか体操出張講習会		指標	さわやか体操出張講座の地域からの依頼(回)					C	感染状況を鑑みながら、地域からの依頼が増えるよう、さわやか体操PRする機会を増やしていきたい。	健康づくり課	
目的:地域の活動団体や自主サークルへさわやか体操を広める。 内容:依頼のあった団体へ、体操普及ボランティア「さわやかマスター」と協力して、さわやか体操の出張講座を実施		目標値	10	11	12	13	14				
		実績値	11	19	8	6					



基本施策 ○行政とボランティアとの協働による健康づくりの推進及び見守り体制の構築											
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題及び今後の対策(方向性)		
		H30	R1	R2	R3	R4					
<b>ア 健康推進員の養成・育成及び活動支援</b>	指標	健康推進員養成講座の受講者数(人)					感染状況に応じて開催時期を考慮して実施。未病センターの新規設置に伴い、民間事業者の従事者を受け入れた。また、現任研修会は、健康推進員養成講座と合同で開催し、延べ41名が受講した。養成講座受講者6人中、入会者なし(R2年度入会率:38.5%)	C	健康づくりに関するボランティア活動を行う市民活動団体(公衛会)の会員数が減少し高齢化の問題もあり、令和4年度で休会。健康推進員の活動及び養成講座の全面的な見直しを図り、若い世代や働き世代を含めた啓発活動ができるよう事業の立て直しを行う。		
目的:健康づくりが市民から市民に広がることを目指し、地域で、健康に関する知識を普及する人を増やす。 内容:栄養・運動・介護予防などの健康に関する知識を普及するボランティアを養成する講座を開催	目標値	15	15	15	15	15					実績値
<b>イ 食生活改善推進員の養成・育成及び活動支援</b>	指標	食生活改善推進員養成講座の受講者数(人)					HPの他、タウン紙への掲載など、市民へ周知して実施。感染症拡大防止のため調理実習は中止したが、実施日程を昨年度から1日増やし、内容の充実を図った。また、例年のような調理実習や交流会ができない中、会長との交流の場を設け、入会への不安を軽減する機会とした。受講者4人中、3人が入会:入会率75%(R2年度入会率:69.2%)	B	参加者同士や会員との交流から仲間づくりができ、入会や入会後の活動にもつながると考えられる。活動の魅力ややりがい伝えていくことで会員数を増やし、団体の円滑な活動に対する支援を継続していく。今後は、参加者の理解度に合わせ、より専門性のある講話内容を検討する。		
目的:地域で食生活改善推進活動を実践するボランティアを増やす。 内容:食に関する知識を普及するボランティアを養成する講座を開催	目標値	15	15	15	15	15					実績値
<b>ウ 市民体操普及員(さわやかマスター)の養成及び支援</b>	指標	さわやかマスターの登録者数(人)					・実施予定だった「養成講座」は、感染症の影響で、R4年度に延期とした。 ・現任研修会を実施し、相互の交流とコロナ禍での活動の注意点や情報交換を行い、活動意欲の維持向上を図った。	B	・次年度は「養成講座」を開催し、新規登録者数を増やしていく。 ・現任研修会では、一部変更した「ゆつくりバージョン」の習得を目指す。新規と現任の交流の機会を設けながら、さわやかマスターの活動の場を広げ、支援していく。		
目的:地域でさわやか体操を普及するボランティアを増やす。 内容:「さわやかマスター」養成講座と研修会の開催	目標値	63	70	70	80	80					実績値
<b>エ 介護予防普及員の養成講座及び担い手の活動支援</b>	指標	介護予防普及員の実人数(人)					・フレイルサポーター:実33人(R1より開始) 養成講座2回 延32人 育成支援 練習会2回 ・脳の健康教室学習サポーター:実14人 ・コグニサイズ普及員:実68人 フォロー研修1回延24人 ・いきいき健康サポーター:実32人 定例会2回 延24人 フォロー研修1回 延16人	B	様々なサポーターが各々の活動場所、地域で活動されてきたが、フレイルサポーター以外の養成は休止している状況。令和4年度当初に各サポーターの今後の活動継続意向を確認し、サポーター活動の統合を図る。		
目的:地域で介護予防に役立つ活動を広めるボランティアを育成する。 内容:コグニサイズ普及員、いきいき健康サポーター、食のソムリエなど、介護予防などに関わるボランティアの養成及び活動を支援	目標値	—	—	—	—	—					実績値
<b>オ ゲートキーパー養成講座</b>	指標	ゲートキーパー養成累計人数(人)					感染症の影響で市民向け講座の開催が難しい中、感染対策を講じて一部オンライン開催を取り入れるなど工夫して実施することで養成人数を増やした。 職員向け:1回 30人、市民向け:7回 47人、職域向け:2回 39人	A	窓口で市民対応をする部署の職員や、地域で市民と接する機会の多い市民活動団体及び職域等を対象とした養成講座を定期的に開催する。		
目的:自分自身や身近な人のこころの不調に気づき、専門機関へ繋げられる人を増やす。 内容:ゲートキーパーについて学び、専門機関につながることを目指す人を養成する講座を開催	目標値	1,000	1,200	1,300	1,400	1,500					実績値
<b>カ 認知症サポーター養成講座</b>	指標	認知症サポーター養成累計人数(人)					感染症の影響で、計画した多くの講座が中止となり、回数および養成数ともに減少したが、少人数での開催など、地域高齢者支援センター、秦野市認知症キャラバン・メイト連絡会の協力にて、学校、公共交通等に対して講座を実施した。 認知症サポーター養成:実776人 ステップアップ講座:20回 延234人	A	感染症対策を講じながら開催できた。今後はこれまでの養成講座を受けた団体に働きかけをし、実践的な内容のステップアップ講座の開催につながるよう、支援していく。		
目的:認知症高齢者にやさしい地域をつくる。 内容:認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者として何ができるのか学ぶ講座を開催。より理解を深め見守る立場から支える立場を目指して、ステップアップ講座を開催。	目標値	10,000	12,100	14,300	16,000	18,000					実績値
<b>キ 地域の介護予防活動に対する支援事業</b>	指標	地域介護予防活動の補助交付数(団体)					・計67団体が補助を受け活動。 ・住民ボランティア団体、シルバー人材センター等に補助金を交付し、訪問型サービスB、D及び通所型サービスBを実施。 訪問型サービスB(住民主体) 2団体 319件利用 訪問型サービスD(移動支援) 3団体 689件利用 通所型サービスB(住民主体) 7団体 2,019件利用	B	地域介護予防活動支援補助金について周知することで、地域で介護予防につながる活動団体を増やし、さらに身近な地域の通いの場の充実を図る。		
目的:地域で身近な通いの場の充実を図る。 内容:地域住民が主体となり、高齢者の居場所づくり、生きがいづくりとなるような介護予防活動を行う団体に対する支援	目標値	88	94	102	110	117					実績値
<b>ク 認知症カフェへの支援</b>	指標	認知症カフェ数(箇所)					・市内全域の認知症の人と家族が参加できるカフェ&サロンの情報を集約し、認知症の人と家族が集える場所の情報提供を行った。 ・市内7地域高齢者支援センターに認知症地域支援推進員による支援もあつたため、認知症カフェ数の維持が図られた。	A	地域高齢者支援センターと連携を図り、認知症カフェの開設等、認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりに取り組んでいく。 令和3年度より目標値を第8期秦野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に合わせた。		
目的:認知症の人の居場所づくりや、心理的負担の軽減等を図る。 内容:地域住民が運営する誰もが集える場「認知症カフェ」に対する支援	目標値	8	9	10	25	27					実績値
<b>ケ 元気高齢者の就労支援、活躍の場の拡大</b>	指標	「認定ヘルパー養成研修」等開催数(回)					介護人材・送迎員等を募集している事業者への情報提供を行い、研修修了者の就労支援を行った。 また、介護分野への多様な人材の参入を促進するため、介護に関する入門的研修や生活援助者従事者研修を開催した。 ・認定ヘルパー研修(2日間×1回) 修了者21人 ・認定ドライバー養成研修(3日間×2回) 修了者40人 ・介護に関する入門的研修(21時間×1回) 修了者15人 ・生活援助者従事者研修(59時間×1回) 修了者9人	A	介護人材や送迎員を募集している事業者への情報提供を引き続き行い、高齢者を含めて幅広い人材が地域で活躍できるよう支援する。 令和3年度から国の委託を受けて実施している高齢者の就労支援を目的とした「生涯現役促進地域連携事業推進協議会」と連携を図り、研修修了者の就労や地域活動の支援につなげる。		
目的:高齢者が地域で活躍し、就労できる 内容:介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービスの担い手として「認定ヘルパー養成研修」「認定ドライバー研修」の実施	目標値	5	5	5	5	5					実績値
<b>コ 市民と行政が協働して行う事業の推進(はだのさわやか体操で介護予防)</b>	指標	さわやか体操 延参加者数(人)					・感染拡大時には一時的に休止した団体が多かったが、年度末には新規団体も立ち上がっている。 ・感染状況に応じて、休止、実施を繰り返していたが、年度末には平時の活動状況に戻り、各団体が介護予防活動の重要性を再認識されたようだった。 ・理学療法士や大学教授と連携し、定期的なフォローアップで、継続支援を行った。 ・「はだのさわやか体操」で介護予防を実践する団体:新規4団体 ・継続団体(R3年度末):33団体 実338人	A	さわやか体操を通じて、フレイル予防の周知を図り、会が継続できるような支援するとともに、今後も地域の見守り機能の拡大につながるコミュニティの形成を目指す。 令和3年度より目標値を第8期秦野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に合わせ、延参加者より実人数に変更したため目標値も変更した。		
目的:高齢者の身体づくりを支援する。自主グループを増やし、地域の見守りや高齢者の閉じこもり予防につなげる。 内容:病院、NPO法人、東海大学と協働して、徒歩で通える範囲内にある会場を拠点に、オリジナルDVD(はだのさわやか体操で介護予防)を見ながら自主的に活動するグループを市内全域に増やし、支援する。	目標値	600	1,200	1,800	430 (実)	500 (実)					実績値



健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)

取組 分野 1 栄養・食生活		※市民健康診査問診票の変更による						
評価指標		計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	目標値
朝食を週4日以上食べている人の増加(朝食欠食率の減少)(40歳~59歳)		82.4%	83.0%	81.8%	81.6%	79.0%		85%
主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加		51.6%	51.3%	51.8%	—※	—		55%
野菜を毎食食べる人の増加		38.5%	55.4%	54.9%	—※	—		45%
適正体重を維持する人の増加(BMI18.5~25未満の者の増加)(40~74歳)	男性	69.4%	67.4%	67.1%	65.6%	66.3%		71%
	女性	69.9%	69.1%	69.0%	67.9%	67.9%		72%

重点目標 <健康な食生活を送る人を増やす>

基本施策 ○ 「はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)」との連携による食育の推進

市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題及び今後の対策(方向性)
		H30	R1	R2	R3	R4			
<b>ア 食生活改善推進員の養成・人材育成(再掲)</b>	指標 アンケートで「食改として活動する」割合(%)	目標値 80	80	80	80	80	養成講座では、感染症拡大防止のため調理実習や交流会ができない中、受講者4名中3名が、新たに食生活改善推進員として入会した。前年より日数を1日増やして余裕のあるカリキュラムで、受講者の負担を少なく実施。また、簡単レシピの配布や料理動画の配信等、健康な食生活を送る人を増やすため、コロナ禍での会員の新しい活動の魅力も伝えることができた。	B	地域でバランスの良い食生活を普及するボランティアを増やすため、毎年、養成講座を実施していく。参加者同士で関わる機会の少なさも課題である。調理実習ができない分、定例会や交流会などで食改と話す機会を作ることで、活動を理解してもらい、入会に繋げていく。
目的:地域で食生活を見直し改善する人を増やす。 内容:食に関する知識を学び、普及するボランティアを養成する講座の開催	実績値 67.0	88.9	69.2	75					
<b>イ 食育推進事業の実施</b>									
<b>a) 幼稚園、こども園等における食育</b>	指標 食育キャラクターを活用した食育の実施回数(回)	目標値 14	27	27	27	27	園児や保護者に対して実施することができ、「早寝、早起き、朝ごはん」に興味や関心を高めることにつながった。新型コロナウイルス拡大防止のため、14園の申込みのうち、2園は実施を休止した。 参加者数 園児429人、保護者40人	B	実践意欲を高め楽しく食育を進められるよう、引き続き各園と連携し、普及啓発を図っていく。新型コロナウイルス拡大防止対策を講じ、状況に合わせて実施する。
目的:幼稚園、こども園等の園児とその保護者を対象に早寝、早起き、朝ごはんの大切さを伝える。 内容:食育キャラクターを活用した食育の普及啓発	実績値 24	21	0	12					
<b>b) 食育講演会及び講座</b>	指標 アンケートで「食への関心が高まった」割合(%)	目標値 100	100	100	100	100	新型コロナウイルス拡大防止のため、事業の実施は休止した。はだの食育通信を発行し、幼稚園、こども園、小中学校、公共施設、乳幼児健診、乳幼児教室等で配布した。市の食育の取り組みを紹介し、「早寝、早起き、朝ごはん」をはじめとする食育の普及啓発を行った。 発行回数 1回、発行数 2000枚	B	食への関心を高め、食育の実践を促すためには、継続的な働きかけが必要である。対象者に合わせた内容や開催時間を検討しながら状況に応じて実施を検討する。
目的:子どもの生活習慣や食生活等、食への関心を高める。 内容:講演会等の開催	実績値 99.1	-	-	-					
<b>ウ 親子食育推進事業の実施</b>									
<b>a) おめでた家族教室における食の普及啓発</b>	指標 自分の体にあった妊娠中の体重増加量を知っていた割合(%)	目標値 70	70	70	75	78	妊産婦の食生活指針の周知を図り、妊娠期からの食事の大切さについて普及啓発した。教室参加者アンケートでは、自分の体にあった体重増加量を知っていた人は前年度よりも増加した。 実施回数 7回 参加者数 36人	A	妊娠届出時の面接を通じて、食事バランスについて周知するとともに、おめでた家族教室や、ホームページ、パンフレット配布等により、適正な体重増加量や栄養バランスのよい食事についての普及啓発に努める。
目的:母体の健康管理や低出生体重児の予防 内容:妊産婦とその家族に対して、食事の大切さを伝え、妊産婦のための食生活指針に基づく普及啓発を実施	実績値 57.1	62.5	75.0	76.7					
<b>b) 離乳食セミナー、幼児食と歯のセミナー</b>	指標 離乳食セミナーのアンケートで「食育を実践できそう」の割合(%)	目標値 100	100	100	100	100	新型コロナウイルス拡大防止のため、1回あたりの参加者数を制限して実施した。試食の提供は休止したが、サンプルの提示や公式YouTubeを活用した離乳食動画の配信を行い、家庭における食育を実践する意欲を高めるよう努めた。 実施回数 29回 延418人 離乳食動画配信回数 6回、総再生回数 764回	A	子どもの食と育児不安の解消を図り、家庭で楽しく食育ができるよう支援していく。親の食生活が子どもの食生活に大きく影響するため、家庭全体での食生活改善を促すことができるよう、共食を通じた食生活支援に努める。
目的:食への関心を高め、子どもの食べる意欲を育む。 内容:乳幼児を対象とした教室での「家庭における食育」の普及啓発	実績値 99.6	99.0	99.0	97.8					
<b>エ 乳幼児健康診査</b>	指標 3歳6か月健康診査時の朝食欠食の割合(%)	目標値 0	0	0	0	0	4か月、7か月、2歳、3歳6か月乳幼児健診において個別相談を実施(新型コロナウイルス拡大防止のため集団指導は休止)。ポスター掲示、資料配布、市内こども園の献立の掲示等により、生活習慣づくりの啓発を図った。	B	配布資料等を活用し、「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを周知し、生活リズムの見直しと朝食を食べることを勧めていく。状況に合わせて、集団指導や周知の方法を検討していく。
目的:乳幼児期の発達の基礎となる「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣づくり。 内容:乳幼児健康診査を通じて食育の推進	実績値 2.8	3.6	2.4	3.6					

○ ライフステージにあわせた栄養バランスのとれた食事の実現と適正体重を維持するための取組

市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題及び今後の対策(方向性)
		H30	R1	R2	R3	R4			
<b>ア 幼少中PTA向け健康講座～食事編～</b>	指標 アンケートで「実践しようと思った」の割合(%)	目標値 100	100	100	100	100	感染症の拡大防止のため、調理実習を見直し講義中心の内容としたが、依頼はなかった。市公式YouTubeによる料理動画の配信やHPへ健康の豆知識と簡単レシピの掲載等、若い世代への情報発信を行った。 実施校数:0校 YouTube掲載回数:7回 視聴回数4452回(R3配信分R4.3.15時点) HPレシピの掲載「健康はだのスタイル」:7回	B	働き世代や子育て世代に、生活習慣病予防に関する知識の習得と望ましい食生活を送る人を増やす。また、調理実習の要望も多いため、令和2年から作成している料理動画を活用し、講座内で調理の工夫を伝えていく予定。
目的:若い世代で、生活習慣病予防に関する知識の習得と望ましい食生活を送る人を増やす。 内容:幼稚園・こども園・小・中学校のPTA向けの講座を開催	実績値 98.0	80.0	-	-					
<b>イ 生活習慣病予防対策事業</b>									
<b>a) メタボリックシンドローム予防・改善のための料理講座</b>	指標 アンケートで「取り組む意欲がある」割合(%)	目標値 80	85	90	95	100	・特定健康診査受診者を対象に、結果送付時に周知して実施。昨年同様、感染対策のため調理実習を中止して講話中心で、定員は12名として健診結果から優先順位を決めて選定した。 ・調理実習を中止したことで、男性の参加者が参加しやすいと考えられ増加している。 ・感染症の影響で、6回の開催予定のうち1回を中止した。 実施回数:5回 延44人 (R1年度:実施回数1回)	A	令和4年度も調理実習を見送り、引き続き講義形式の「食生活のすすめ」を実施予定(メタボ編6回予定)。メタボ編は基礎だけでなく、応用編の内容も取り入れる。引き続き、血管年齢測定も同時に実施していく。また、調理実習の要望も多いため、令和2年から作成している料理動画を活用し、講座内で調理の工夫を伝えていく予定。
目的:食事の適量を知り、望ましい食行動を学ぶ。 内容:メタボリックシンドローム予防・改善のための料理講座を開催(食生活や食行動を見直し、家族を含めた健康の維持・改善につながる内容)「食生活のすすめ(メタボ編)」	実績値 89.0	87.3	90.9	95.5					
<b>b) 病態別料理講座の開催</b>	指標 アンケートで「バランス良く食べる意識が高まった」割合(%)	目標値 95	98	98	100	100	・一般を対象に、広報・HPで周知して実施。昨年同様、感染対策のため調理実習を中止し、講話中心に、計画どおりに実施ができた。糖尿病、高血圧、脂質異常とテーマを明確に周知したことで、取組の意欲が高い参加者が多く、事後アンケートからもさらに意識が高まった。 調理実習の代わりにするものとして、料理動画の放映や配布などで情報提供を行った。 実施回数 6回 参加人数(延)63人 (R2年度:3回37人)	A	令和4年度も調理実習を見送り、引き続き、講義形式の「食生活のすすめ」を実施予定(病態別 年6回予定)。特に、脂質異常のテーマは、定員を超える申し込みのため、次年度は会場の変更、定員を増やすことも検討する。引き続き、さらに深く知りたい人は個別相談を受けることや、他の講座との連携も考えながら実施していく。
目的:生活習慣病の重症化を予防するための料理のポイントがわかる。 内容:糖尿病編、高血圧症編、脂質異常編の料理講座の開催「食生活のすすめ(病態別編)」	実績値 96.0	94.8	97.3	93.3					

ウ 地消地産推進事業		指標	アンケートで「参考になった」の割合(%)					はだの野菜ヘルシー料理講座は、調理実習を中心とした講座のため休止したが、今年度は、脂質やエネルギーに配慮した健康的な食事の調理工程および管理栄養士のアドバイス等を市の公式YouTube「はだのモーピク」に動画を配信し、広く普及啓発した。 掲載回数:7回(R2年度:9回) 視聴回数4452回(R3配信分R4.3.15時点)	B	感染症拡大防止のため調理実習は休止するが、若い世代や男性にも取り入れやすい簡単で健康的なレシピや、おもてなし料理など、動画配信による普及啓発は継続していく。また、内容だけではなく、検索しやすいワードやタイトルも工夫し、広く普及啓発していく。 掲載予定回数:6回	健康づくり課
目的:生活習慣病予防のための食事を学ぶ。 内容:安心安全な地場産野菜を使い、主食・主菜・副菜の揃った健康的な食事の基本を学ぶ料理講座の開催	目標値	90	95	95	98	98					
	実績値	95.0	93.3	—	—						
エ 一般介護予防事業(栄養)の実施											
a) 介護予防普及啓発事業		指標	栄養に関する講座の延参加者数(人)					○公民館等で行う栄養講座 ・「フレイル予防で健康長寿」3会場 延41人 ・出前講座 16回 延254人 ○ミニデイサービスでの講座 2回 延30人 ○いきいき運動コースでの講座 4回 延82人 ○地域高齢者支援センター主催介護予防教室 3回 延48人 ○後期高齢者健診低栄養フォロー支援実22人 ○日常生活支援総合事業「おいしく食べよう歯っぴー訪問(訪問C)」 栄養訪問件数:延18人	B	通いの場や各公民館で講座を行うなど、地域に出向き、低栄養予防の内容を取り入れ、周知を図った。また、後期高齢者健診受診者に対する低栄養の方に面接等により、個人の状況に合わせた低栄養改善支援を行った。 「介護予防・日常生活支援総合事業」の1つ、自立支援・重度化防止の推進対策として管理栄養士や歯科衛生士による訪問支援を強化し、要介護状態への移行を予防する支援を行った。 今後も、より多くの高齢者が個人の状況にあった適切な栄養習慣が身に付くような支援を展開する。	高齢介護課
目的:高齢者の低栄養予防を重点に高齢期に適した食事について広く普及啓発していく。 内容:栄養に関する講座・相談の実施	目標値	800	850	900	950	1000					
	実績値	829	965	275 ⇒490	455						
b) 管理栄養士によるボランティア支援		指標	管理栄養士のボランティア支援の延参加者数(人)					・新型コロナウイルス感染症拡大により、食の提供を中止した団体が多かったため、実施する団体が大幅に減少した。再開に当たっては、ボランティアが安心して食提供に取り組めるよう衛生講習会を実施。 ミニデイ 3回 延23人 いきがい型デイ 4回 延33人	B	食のボランティアが感染症予防に注意しながら、安心して活動できるよう引き続き支援を行う。	高齢介護課
目的:食の提供をしているボランティアが衛生管理に注意し、継続して活動できるよう支援する。 内容:食事提供ボランティア・食生活改善推進団体への活動支援、食のレクリエーション・食のサポート講座	目標値	—	—	—	—	—					
	実績値	305	266	264	56						
○ 地消地産を推進する取組											
市の主な取組(事業名)		目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課評価	課題及び今後の対策(方向性)	
内容			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 地消地産推進事業(再掲)		指標	アンケートで「野菜情報が参考になった」割合(%)					はだの野菜ヘルシー料理講座は、調理実習を中心とした講座のため休止。野菜を中心とした健康的な食事の調理工程および管理栄養士のアドバイス等、市公式YouTube「はだのモーピク」で動画を配信した。 掲載回数:7回(R2年度:9回) 視聴回数4452回(本年度配信のみ3/15時点)	B	動画配信は、幅広く啓発できる媒体として継続し、地産地消の理解も深まるよう、バランスの良い食生活を普及啓発していく。また、他講座でも調理実習に代わる教育媒体として活用していく。 掲載予定回数:6回	健康づくり課
目的:本市の農業や農産物への理解を深める。 内容:地場産野菜を使い、主食・主菜・副菜の揃った健康的な食事の基本を学ぶ料理講座の開催	目標値	85	90	90	95	95					
	実績値	87.0	90.3	—	—						
イ 親子地場産野菜教室への支援		指標	親子地場産野菜教室開催数(回)					20組の親子を対象に年15回実施。計画どおり事業は実施され、地産地消を推進した。 参加組数が多かったが、各自スペースを空けながら作業し、密にならずに実施ができた。	A	事業を継続実施し、地産地消を推進していく。	農業振興課
目的:親子で地域の農や食の大切さを学ぶ。 内容:食生活改善推進団体が年間を通じ、親子で野菜の栽培・収穫・調理を体験する教室の開催	目標値	14	14	14	14	14					
	実績値	14 (20組)	14 (20組)	15 (8組)	15 (20組)						
ウ はだの産農産物応援サポーターの拡充		指標	はだの産農産物応援サポーター店の登録数(店)					地産地消を応援し、PR等に協力するお店を対象に「はだの産農産物応援サポーター店」として登録し、登録した飲食店に対して「はだの産農産物応援サポーター店」PRのための看板を配布。広報等でPRしたことにより、昨年度と比べて2店舗増え、目標値より高い実績値となった。	A	今後も広報等でPRすることにより、はだの産農産物応援サポーター店を増やし、地産地消を推進していく。	農業振興課
目的:地産地消を応援する店舗を増やす。 内容:協力する店舗を対象に「はだの産農産物応援サポーター店」登録制度を実施	目標値	36	36	38	38						
	実績値	42	47	48	50						



健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)

取組分野 2 身体活動・運動

評価指標	計画策定時		H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	目標値
	40～64歳	男性	48.8%	47.7%	48.1%	51.0%	47.8%	54%
日常生活において1時間以上の歩行と同等の活動を行っている人の増加	64歳	女性	51.6%	49.4%	51.8%	49.0%	44.4%	56%
	65～74歳	男性	57.5%	55.7%	56.1%	54.3%	53.2%	62%
	74歳	女性	53.1%	54.6%	54.3%	53.8%	55.6%	58%
	40～64歳	男性	35.4%	35.5%	37.7%	33.0%	35.2%	40%
運動習慣のある人(1回30分以上、週2回以上の運動を1年以上継続している人)の割合の増加	64歳	女性	33.5%	31.2%	31.5%	33.6%	30.8%	38%
	65～74歳	男性	56.5%	52.6%	52.5%	48.1%	48.2%	60%
	74歳	女性	50.1%	49.1%	47.9%	50.4%	50.0%	55%

重点目標 <身体活動・運動を行う人を増やす>

基本施策 ○ 身体活動・運動に関する正しい知識の普及とライフステージに応じた効果的な身体活動の取り組みの推進

市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題及び今後の対策(方向性)
		H30	R1	R2	R3	R4			
<b>ア</b> 幼小中PTA向け健康講座～身体活動編～	指標	アンケートで「実践する」割合(%)					幼稚園・こども園及び小中学校PTAを対象に身体活動に関する出張講座を実施。感染症の影響で、前年度同様に実施校数が少ないが、アンケートでは「実践できる内容があった」と約7割が回答し、身体活動を増やす意識の向上につなげることができた。実施校:2校/参加者数:52人(R2:2校)	B	若い世代へ普及啓発する機会と捉え、前年度中に周知し、多くの参加があるようPTA側の担当者と連携し、健康の情報発信もあわせて実施していくとともに、家族ぐるみで健康意識が高まるような内容を盛り込んでいく。
目的:若い世代で健康づくりへの関心が高まる人を増やす。 内容:幼稚園・こども園・小・中学校のPTA向けの運動講座	目標値	100	100	100	100	100			
	実績値	94.9	90.7	89.4	71.2				
<b>イ</b> 健康教育事業(東海大学との身体活動講座)(再掲)	指標	アンケートで「運動を実践・継続できる」割合(%)					感染症の影響で令和3年度の開催はなかったが、東海大学、スポーツ推進課と協働で、ウォーキングガイドを作成、各課の講座等で配布し、効果的なウォーキングについて普及啓発した。新型コロナウイルスの影響で令和3年度の開催なし。	B	感染症拡大状況を鑑みながら、次年度以降協働して事業を進めていく。
目的:ロコモ予防のため運動を継続できる人を増やす。 内容:東海大学体育学部の学生が中心となって運動講座の開催	目標値	90	100	100	100	100			
	実績値	84.8	0	82.0	-				
<b>ウ</b> 生活習慣病予防事業の実施	指標	アンケートで「実践する、できそう」の割合(%)					緊急事態宣言中のみ講座を中止したが、感染症対策を講じながら実施した。特定健康診査の結果通知時に計画的に講座日程を周知したことで、健診受診者が健康に関心が高まっている時期に参加を促すことができた。 4講座の全参加者数(延べ):255人 「実践する」と回答した人数:236人(92.5%)	A	健康サポート講座は男性参加者の割合が少ないため、男性の参加意欲が上がるような内容の一部内容変更を検討中。その他の講座についても、参加者のニーズを分析しながら講座内容を検討していく。
目的:自らの生活習慣を振り返り、改善する意欲を高める。 内容:メタボリックシンドロームの改善・予防を図る講座を開催(脱メタボ・いきいき食生活メタボ・健康サポート講座・糖尿病予防講座)	目標値	80	82	85	88	90			
	実績値	75.3	89.9	84.6	92.5				
<b>エ</b> 重点健康相談事業(骨密度測定相談会)	指標	骨密度測定会の参加者数(人)					乳がん検診時、未病健康相談会等で骨密度測定を実施した。同時に、骨密度を増やす生活習慣改善に向けて相談を行った。また、初めてシルバー人材センター会員に実施した。 乳がん検診:7回276人、講座:12回186人 シルバー:1回39人	A	乳がん検診時での啓発は、初めて骨密度を受ける人もいるが、リピーターも多い印象のため、次年度はリピート率を調査していく。若い世代に啓発できる機会も検討していきたい。
目的:骨密度に関心を持ち、自らの骨密度を知る人が増える。 内容:骨粗鬆症予防を目的とした骨密度測定の実施	目標値	400	400	400	400	400			
	実績値	428	398	299	462				
<b>オ</b> 一般介護予防事業の実施(運動)	指標	運動に関する講座の延参加者数(人)					○公民館等で以下の運動講座を実施 ・「姿勢改善で痛み予防」 2日間×12回 延153人 ・「ボールウォーキング」 2日間×2回 延55人 ・「いきいき運動コース」 36回(4会場) 延763人 ・「コグニサイズでGO」 7日間 延90人 ・フレイルチェック測定会 6回 延41人 ○ミニデイサービスで運動講座を実施 7回 延53人参加 ○地域高齢者支援センター主催の介護予防教室 14回 延128人参加	B	感染症予防に留意し、各種団体の協力を得ながら、事業を実施した。今後も自分に合った無理のない効果的な運動を取り入れることができるような運動講座を提供していく。
目的:身体を動かし、心身機能の低下を予防する。 内容:運動に関する講座、相談の実施	目標値	2,650	2,800	2,950	3,100	3,250			
	実績値	4,388	4,241	1,180	1,303				
<b>カ</b> 運動推進事業(さわやか体操出張講習会)の実施(再掲)	指標	さわやか体操出張講習会の依頼(団体数)					感染症の影響で依頼団体数は令和2年度に引き続き依頼数が減少した。前年に依頼のあった生命保険会社から、フォローアップの希望があり実施した。 実施回数:6回、参加人数:120人	C	感染状況を鑑みながら、地域からの依頼が増えるよう、さわやか体操PRする機会を増やしていきたい。
目的:地域の活動団体や自主サークルへさわやか体操を広める。 内容:依頼のあった団体へ、さわやか体操の出張講習会を実施	目標値	10	11	12	13	14			
	実績値	6	9	4	4				
<b>キ</b> 3033運動の推進	指標	イベントで3033運動の啓発周知数(回)					新型コロナウイルスの影響により、イベント等での普及啓発は実施できなかったが、各スポーツ施設への階段や壁に常時ポスター掲示することで普及啓発を図った。	C	令和3年度は、ほとんどイベントが開催されなかったため、今後は社会情勢の変化に応じた普及啓発活動を検討する必要がある。
目的:1日30分、週3回、3か月継続してスポーツを実施。 内容:イベント等で普及啓発を実施	目標値	1	-	-	-	-			
	実績値	2	2	0	0				
<b>ク</b> スポーツ教室(市スポーツ協会による実施)	指標	新規プログラム教室の開催数(回)					・ズンバ教室(8回) 延93名 ・ボールウォーキング教室(18回) 延146名	A	現在の開催事業をベースに、利用者の要望を取り入れた新規プログラムを検討し、教室を展開していく。また、令和4年度からふるさと大使と連携した教室を実施しているため、当教室を通して、女子野球の普及を図っていく。
目的:子供から高齢者、障害者などがスポーツに親しむ。 内容:気軽に参加できる各種スポーツ教室の実施	目標値	1	1	1	1	1			
	実績値	5	2	2	2				
<b>ケ</b> スポーツ・レクリエーションイベントの充実	指標	チャレンジデーの参加率(%)					感染症対策を実施したうえで、「2021スポーツクライミングはだの丹沢カップ」を開催した。また、指標となっている「チャレンジデー」は、10月に延期となったが、2年ぶりに開催することができた。 ・2021スポーツクライミングはだの丹沢カップ 213名 ・チャレンジデー 18,850名	B	チャレンジデーの参加者増に向けた周知方法を工夫していく。また、はだの丹沢カップについては、継続的に実施し、スポーツクライミングの普及・振興を図る。
目的:市民のスポーツに対する参加意欲を高める。 内容:参加型イベント(チャレンジデーなど)や体力テスト、ニュースポーツ体験会などの開催	目標値	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0			
	実績値	46.4	53.2	-	11.5				

基本施策 ○身体活動・運動に取り組みやすい環境づくり										
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・ 実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題及び今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア さわやかマスター(体操普及員)の養成及び育成(再掲)	指 標	さわやかマスターの活動回数(回)					R3年度に実施予定だった「さわやかマスター養成講座」は新型コロナウイルス感染症の影響で、R4年度に延期とした。さわやかマスターの活動意欲の維持向上を目的として、11月に現任研修会を行った。市直営体操会である「丹沢あおぞら体操会」は11月から再開し、前年に比べ活動が増えてきている。	B	さわやか体操を通じて、地域住民の運動のきっかけづくりや継続につながるよう、コロナ禍におけるさわやかマスターの活動の場や方法について検討が必要。徐々に活動の回数等をコロナ禍以前に戻せるようにマスターと協力して実施。	健康づくり課
目的:さわやかマスターが地域で広く体操の普及を行う。 内容:さわやかマスターを養成・育成し、地域で活動できるよう支援	目標値	75	77	79	81	83				
	実績値	75	82	0	10					
イ 地域での体操会の開催(再掲)	指 標	市内体操会の延参加者数(人)					市直営体操会である「丹沢あおぞら体操会」は感染状況を鑑みながら、11月より再開。その他、屋外で実施している体操会は継続して実施した。各体操会の中心となっているさわやかマスターの協力もあり、体操会の参加人数は、令和2年度と比較して増加した。	B	公園等の身近な場所で、自主的に行う「体操会」が継続して行えるよう、活動を支援する。また、体操会運営の中心となっているさわやかマスターが意欲的に活動できるように支援を行うとともに、休止中の市直営体操会である「ラジオ体操会」の再開に向けて動いていく。	健康づくり課
目的:地域で、「体操会」を定期的実施し、運動習慣のある人を増やす。 内容:さわやかマスターが中心となり、体操会を定期的に開催	目標値	8,000	8,100	8,200	8,300	8,400				
	実績値	7,125	5,181	2,654	3,154					
ウ 普及啓発事業の実施	指 標	ウォーキングマップ等の配布数(枚)					ウォーキングマップ、さわやか体操の解説図を、市内のイオンモールで開催した「未病かながわ再発見」ブースでパネル展示とチラシ配布し、コロナ禍でもできる身近な健康づくりとして情報提供した。ウォーキングマップには、県が推進する健康管理アプリ「マイME-BYOカルテ」のQRコードを掲載し、歩数を計測して楽しみながらウォーキングが継続できるよう周知した。	B	市民が運動に取り組めるよう、媒体の工夫、各イベントや講座実施の機会を捉えて積極的に情報提供していく。	健康づくり課
目標:市民が運動に取り組みやすい環境づくり 内容:ウォーキングマップ、市内体操会案内、さわやか体操のCD・DVD等を配布	目標値	550	600	650	700	750				
	実績値	570	980	550	274					
エ 健康増進計画事業推進協議会との協働事業(再掲)	指 標	春風ウォークの参加者数(人)					例年、開催しているウォーキングイベント(全長5.8kmのはだの桜道)は、健康づくりに関心が薄い人やあらゆる世代の人が参加し、「健康はだの21」の推進に関連した普及啓発を行う機会であったが、感染症の影響で中止となった。コースは、HP上で公開し、少人数でのウォーキングを呼び掛けた。	D	「桜」をきっかけにしたウォーキングイベントは、あらゆる世代に健康情報を普及啓発できる機会でもあり、安全に開催する方法等を検討していく。	健康づくり課
目的:健康増進計画推進協議会と連携による健康づくりの普及啓発 内容:健康増進計画「健康はだの21」の推進協議会と協力して、健康づくりイベントを実施	目標値	400	400	400	400	400				
	実績値	276	471	-	-					
オ 森林セラピー事業	指 標	森林セラピーの開催数(回)					里山団体などと共催で、森林セラピーイベントを開催し、里山の魅力を発信した。イベントの他、森林セラピーガイド研修(2回)、藍染め研修会も実施した。参加者数:309人。	A	里山団体や施設管理者等による協議会と連携して、イベントの開催や人材育成を図る。また、市外向けに発信強化も検討していく。	森林ふれあい課
目的:山の魅力を感じながら身体活動を普及啓発する 内容:市と里山団体共催で一般市民などを対象に森林セラピー体験事業を市内の里山において実施	目標値	7	7	10	11	12				
	実績値	5	7	7	22					



健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)

取組分野 3 こころの健康・休養

評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	目標値
ゲートキーパー(自分と人の状態に気付ける人)の増加	633人	1,000人	1,319人	1,353人	1,459人		1,000人
ストレスに対処できる人の増加	50.0%	50.5%	—	66.3%	61.0%		55%
睡眠で休養が十分にとれていると感じる人の増加	77%	75.9%	76.6%	77.5%	77.6%		80%

重点目標 <自分や他人の悩みや心の状態に気付ける人を増やす> <十分な睡眠をとり、ストレスと上手につき合える人を増やす>

基本施策 ○相談窓口の周知や身近に相談できる人を増やすなどのこころの健康づくりをサポートする体制の充実

市の主な取組(事業名) 内容	目標値・ 実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題と今後の対策(方向性)		
		H30	R1	R2	R3	R4					
<b>ア こころの健康対策事業</b>											
a) 市内公立中学校へのこころのリーフレットの配布	指標	掲載相談窓口の数(箇所)					県、市や関係機関等の相談窓口を掲載するリーフレットは、若年層対策としてSNSを活用した相談窓口を増やし、QRコードも掲載した。(さまざまな悩みの相談窓口一覧)。市内中学校(2回)及び高校(1回)へ、「心の体温計」のQR付カードやメンタルケア動画配信案内、相談ダイヤル、よりよいホットラインを掲載したカード型チラシを配付した。配付数 9月:中学校及び高校6,746人分 3月:中学校4,272人分	A	若年層への対策を強化するため、市内中学校及び高校でのカード配布等を継続する。また、若年層が気軽に相談できるよう、相談窓口の効果的な啓発に努める。	健康づくり課	
目的:思春期の世代に相談窓口を周知する。 内容:こころの体温計と悩みに対する相談機関を掲載したリーフレット等の配布(市内公立中学校への配布)	目標値	60	62	64	66	68					実績値
b) 職域などでの相談窓口の情報提供	指標	職域で配布できた事業者数(箇所)					・働き世代で悩みをもつ人が適切な相談先につながるよう、職域向けの養成講座開催時に、相談先窓口の掲載リーフレットを配布し相談体制の強化を図った。 ・労務安全協会の研修会にて、感染対策を講じて講座を実施した。	B	全国の傾向で、男性の壮年期の自殺者数が多いことから、職域や地域でゲートキーパー養成研修を開催し、相談窓口の周知を図る。実施事業者数を増やすために、関係機関との連携を強化する。	健康づくり課	
目的:青年期・壮年期の世代に相談窓口を周知する。 内容:職域や地域での相談窓口の情報提供	目標値		5	10	15	20					実績値
c) ゲートキーパー養成講座(再掲)	指標	アンケートで「地域の見守りが大切」の回答割合(%)					・市民対象では、感染対策のため、少人数で実施したため、「地域の見守りの大切さ」の認識について理解が良好。職域対象でも、9割以上の参加者が「自殺対策の推進が地域セーフティーネットの構築になる」に回答した。 ・ワクチン集団接種会場で、モニター上映・養成講座の動画研修の案内カードを配布職員向け:1回30人、市民向け:7回47人 職域向け:2回39人	B	各種相談窓口の職員、民生委員などを対象とした養成講座を定期的に開催する。また自殺対策の共通認識が理解できる講座内容とするよう、適宜内容を検討する。	健康づくり課	
目的:自殺リスクのある人に気づき、専門機関へ繋げられる人を増やす。 内容:ゲートキーパーについて、専門機関につなぐことができる人を養成する講座を開催	目標値	80	80	80	80	80					実績値
d) 「こころの体温計」の運用	指標	10代のアクセス数(件)					こころの体温計や、メンタルケア動画配信案内を市内中学校高校に配布し若年層への対策を強化した。自殺対策キャンペーンを実施した9月、3月は、10代及び親世代(30~50代)のアクセス数が増加。若者が目を留めやすいポップなデザインに変更するなどの工夫やタウンニュースの掲載等により顕著に増加した。 ・生活困窮者向けのニコニコマーケットで「こころの体温計」カード付マスク配布した。配布時期:毎年9月、3月 年間アクセス数:26,093件	B	カード等の配布により、家庭内でこころの健康に関する情報共有を図り、ストレス状態に早期に気付くことができるよう、市内中学校・高校への配布を継続し、普及啓発を拡充していく。	健康づくり課	
目的:自分のストレスの状態に気づける人を増やす。 内容:ホームページにメンタルセルフチェックシステム「こころの体温計」を公開し、自分のストレス状態に早期に気づく機会を提供	目標値	1,500	1,550	1,600	1,650	1,700					実績値

**イ 妊産婦のこころのケア対策事業の実施**

a) 妊娠届出時面接の実施	指標	妊娠届出時面接の実施率(%)					母子保健コーディネーター2名を中心として、全妊婦及び同席者を対象とした面接により母子健康手帳交付。交付と同時に状況に応じた助言・支援を行った。また継続支援が必要な場合は電話等での継続支援を行った。妊娠届出数767件 転入者70件	A	子育て世代包括支援センターとして切れ目のない支援の充実を図り、児童福祉部門とも、さらに連携強化や体制づくりに努める。	こども家庭支援課	
目的:安心して出産・子育てができる。 内容:妊娠届出時の面接を行い、切れ目のない支援を実施	目標値	100	100	100	100	100					実績値
b) 妊産婦新生児訪問事業	指標	妊産婦新生児訪問の実施率(%)					妊娠から出産にかけて、母親は心身が不安定になりやすいため、児との生活に慣れ、子育てが安心できるよう訪問を実施した。里帰りについても、自治体間で連携をとり支援した。また、新型コロナウイルス拡大防止に配慮し、電話相談にする等柔軟に対応した。状況によってエジンバラ産後うつ病質問票を実施し、高値の産婦には、産後ケア事業実施につなげるなど、さらに切れ目のない支援に努めた。	A	今後も助産師や保健師による家庭訪問を継続実施し、妊娠から出産、子育てまでの日常生活全般における切れ目のない支援に努める。	こども家庭支援課	
目的:妊産婦・新生児の健康を守る。 内容:助産師や保健師による家庭訪問を行い、日常生活全般における相談等支援を実施し、妊産婦の不安緩和や健康管理、産後の経過確認、新生児の健全育成支援を実施	目標値	95	95.5	96	96	96					実績値
c) 乳幼児健康診査での相談	指標	1歳6か月児健診で「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある」母親の割合(%)					新型コロナウイルス拡大防止対策を講じることで、受診率が向上したが、指標は大きく下回った。全健診で保健師等による問診を実施し、各月齢に応じた発育・発達確認の他、健康の保持増進、食育やことばの発達を促し、安心して子育てができるよう支援に努めた。また、母自身のこころからの状態も確認し、必要時に個別相談及び地区担当保健師や関係機関で相談ができるよう支援し、切れ目のない支援の場としても努めた。	A	乳幼児健診を通して、子どもの成長に伴う子育ての大変さや不安を予測した助言と情報提供に努める。また、妊娠時から継続的な関わりにより、安心して子育てに臨めるよう、育児支援の充実を図る。	こども家庭支援課	
目的:乳幼児の発育発達や子育て全般、養育状況等の不安の軽減 内容:集団健診の特性を活かし、妊娠時から継続的な関わりにより、問診及び個別相談を実施。	目標値	87	88	88	88	88					実績値

**ウ 介護者支援**

a) 介護者からの電話相談窓口	指標	電話相談等延件数(件)					介護者が困ったり悩んだりした時に相談できる窓口として電話相談窓口「介護者ほっとライン」を実施。電話8件、訪問0件	B	水曜日を相談日として設けているが、定期的な相談もあるため、同じ看護師が対応するなど安心して相談できる体制づくりに努める。また、相談件数としては電話相談の曜日や時間帯を確認していく。	高齢介護課	
目的:家族の身体的・精神的負担の軽減を図る 内容:介護者からの電話相談窓口「介護者ほっとライン」の設置	目標値	—	—	—	—	—					実績値
b) 介護者セミナー	指標	介護者セミナーの延参加者数(人)					感染予防対策を講じながら、「老人ホームの選び方」と「介護保険の上手な使い方」というテーマで2日間開催した。	B	介護者の精神的負担の軽減につながる事業内容(実施回数)の見直し、参加者同士の交流が図れる企画等)を検討する。令和3年度より目標値を第8期秦野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に合わせた。	高齢介護課	
目的:家族の身体的・精神的負担の軽減を図る。 内容:介護者の体験談や介護の知識などの普及啓発を行う「介護者セミナー」の実施	目標値	100	120	150	170	200					実績値
c) 介護者のつどい	指標	介護者のつどいの延参加者数(人)					同じ悩みや経験をもつ介護者同士が交流する「介護者のつどい」を市と地域高齢者支援センターとの共催で実施。4回 延50人	B	各地域高齢者支援センターに配置の認知症推進員と連携を図りながら、開催していく。つどい自体が市共催に加え、ボランティア主催が多く、全件数の把握が困難なため、第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画からは、介護者支援の充実として、介護者セミナー参加者数及び認知症カフェの団体数と合わせて評価していくこととする。	高齢介護課	
目的:家族の身体的・精神的負担の軽減を図る。 内容:同じ悩みや経験を持つ介護者同士が交流する「介護者のつどい」の実施	目標値	100	120	140	—	—					実績値

基本施策 ○睡眠と休養の重要性の啓発											
市の主な取組(事業名)		目標値・実績値等	年度					h	担当課 評価	課題と今後の対策(方向性)	
内容			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 幼小中PTA向け健康講座～こころの健康編～		指 標	アンケートで「実践してみようと思った」割合(%)					・幼小中PTA向けに、活動と休養(睡眠)のバランスの大切さを周知するため講座の案内をしたが、感染症の影響で睡眠講座の依頼はなく、ストレス対策講座の依頼は1件(幼稚園)のみだった。 ・対面式の講座開催が困難なため、SNS(公式LINE、ツイッター)を活用した情報発信や、市公式YouTubeにメンタルケアの動画配信も行い、保護者世代への啓発を強化した。	B	こころの健康づくりの観点から、睡眠・休養の重要性は、子どもだけでなく大人も同様に、見直す必要がある。若年層を対象とした事業展開を進めていく。	健康づくり課
目的:多くの若い世代に「睡眠・休養」に関心を持ってもらう。 内容:「活動と休養のバランス」についての出張講座を実施		目標値	70	70	70	70	70				
		実績値	70.0	86.1	—	100					
基本施策 ○自殺予防対策の推進											
市の主な取組(事業名)		目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題と今後の対策(方向性)	
内容			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 自殺対策計画の策定及び推進		指 標	講座アンケートでゲートキーパーの認知度(%)					・秦野市自殺対策推進委員会及び庁内連絡会議において、自殺対策計画の進捗状況を確認した。 ・普及啓発は、感染症の影響により一部縮小して実施することになったが、情報発信については強化して実施した。 自殺対策推進委員会:11関係機関 庁内連絡会議:13構成課、各年1回開催 庁舎内でのキャンペーン実施・自殺予防横断幕の掲示:2回(9月、3月)	A	今後、自殺死亡率の減少を目指して、関係機関との連携を強化するとともに、各基本施策(特に重点的な取組分野)について具体的に実行力のある対策を推進していく。	健康づくり課
目的:地域の自殺の実態を把握し、実情に合った自殺予防対策を推進する 内容:計画を策定し、進行管理をする		目標値	5	8	12	16	20				
		実績値	—	11.3	17.7	12					





基本の方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)

取組分野 5 歯・口腔

※3 市民健康診査問診票の変更による

評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	目標値
3歳6か月児歯科健診におけるむし歯がない幼児の増加	85.5%	86.5%	88.6%	90%	92%		86%
年に1度以上、歯科健診を受けている人の増加	33.9%※1	《参考57.4%》※2	《参考58.3%》※2	—	—		45%
補助的清掃用具の使用について普及啓発をすることで、口腔内のセルフケアをしている人の増加	54.1%	61.0%	61.1%	—※3	—		65.0%
80歳(75~84歳)で20本以上自分の歯を有する人の増加	38.1%※1	《参考42.9%》※2	《参考43.0%》※2	—	—		50.0%

データ抽出元 ※1:健康状況アンケート調査 ※2:市民健康診査、特定健康診査問診票

重点目標 <いつまでも自分の歯でおいしく食べられる人を増やす>

基本施策 ○乳幼児健診におけるむし歯予防の推進

市の主な取組(事業名)	内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課	課題と今後の対策(方向性)	
			H30	R1	R2	R3	R4				
<b>ア 歯科保健事業</b>											
a) 妊婦歯科健康診査	目的:妊婦の口腔衛生の向上を図り、胎児の健全な発育を促す。 内容:母子保健法第13条に基づき、秦野伊勢原歯科医師会に委託し、妊娠中1回の歯科健康診査費用の補助を実施 ※平成30年6月からの開始事業	指標 妊婦歯科健診受診率(%)	目標値 20	20	20.5	20.5	21	母子健康手帳交付時、受診の必要性を説明して妊娠中から口腔衛生に関心を持つきっかけとなるよう、受診勧奨に努めた。 母子健康手帳交付778人 受診数160人	A	より多くの妊婦やその家族に、口腔衛生に関心を持てるように、受診を促し、妊婦と胎児の健康管理及び早産や低出生体重児の出産リスクの軽減に努める。	こども家庭支援課
b) 乳幼児健康診査における歯科健診及び歯科相談	目的:生涯にわたっての、口腔の健康保持増進を図る。 内容:乳幼児健診において、歯科健診及び歯科相談を実施	指標 3歳6か月児健診時の虫歯がない幼児の割合(%)	目標値 86	86	87	87	88	歯が生え始める7か月児健診から個別の歯科保健指導を実施し、特に1歳6か月児健診や2歳児歯科健診において個別の歯科相談を行い、むし歯の発生予防や母乳、ミルク、食事、おやつ等の食生活、仕上げ磨き、また噛む大切さを伝えることで、口腔の健康増進に努めた。	A	引き続き、健康な体の基礎が作られる乳幼児期からの口腔の健康増進に努める。	こども家庭支援課
c) 幼児食と歯のセミナー	目的:子どもの食べる意欲、身体、情緒、ことばの発達を促す食事の大切さを伝える。 内容:食生活からのむし歯予防を啓発し、食事の大切さを伝える教室の開催	指標 自宅で虫歯予防を実践できそうと思った割合(%)	目標値 100	100	100	100	100	「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣づくりと発達との関係性を伝え、食を通じたむし歯予防と、家族での生活習慣の見直しを啓発した。 新型コロナウイルス拡大防止のため、1回毎の参加者数を制限し、試食の提供は休止した。 実施回数 9回、参加者数 118人	A	参加しやすいように7か月児健診時にリーフレットを配布し、家族で食育及び虫歯予防に取り組めるよう支援に努める。	こども家庭支援課

○予防歯科及びかかりつけ歯科医の必要性の普及啓発

市の主な取組(事業名)	内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課	課題と今後の対策(方向性)	
			H30	R1	R2	R3	R4				
a) 歯周病検診	目的:歯周病の早期発見・早期治療につなげる。 内容:40・50・60・70歳での検診を秦野伊勢原歯科医師会に委託し実施	指標 歯周病健診受診率(%)	目標値 5.5	5.6	5.7	5.8	5.9	歯周疾患による口腔機能低下を予防するために、対象年齢へ受診券を送付し、歯周病検診を実施。R2に引き続き、新型コロナウイルスの影響による受診控えや、受診者数が伸びなかったため、12月にSNSによる情報発信、広報掲載にて周知したが、実施率は低下した。	C	歯周病検診の効果的な周知方法について、秦野伊勢原歯科医師会と検討し、受診率の向上を図っていく。 また、初年度の40歳を対象に、追加で個別勧奨するなど、周知を強化していく。	健康づくり課

イ 歯科保健普及啓発事業(歯と口の健康週間事業)

a) 歯と口の口腔ケア講演会	目的:歯と口腔に関心がある人を増やす。 内容:正しい歯と口腔のセルフケアを普及する講演会の実施	指標 口腔ケア講演会の参加者数(人)	目標値 130	135	135	140	140	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、例年、歯と口の健康週間に実施する講演会は中止したが、歯科休日急患診療所の周知のため、啓発カードを配布した。 国保加入者へ送付する特定検診リーフレットにオーラルフレイル予防・口腔ケアの情報提供を掲載し、普及啓発に努めた。	B	講演会については、公共施設へのちらしの設置だけでなく、自治会回覧等による周知を継続し、参加者の増加を図る。	健康づくり課
b) 口腔がん検診	目的:口腔がんの早期発見・早期治療 内容:口腔がん検診の実施	指標 口腔がん検診の受診者数(人)	目標値 50	70	70	70	70	歯と口の健康週間に実施していた口腔がん検診は、時期をずらして1月に実施した。 感染症対策のため、待合室が混み合わないよう事前申し込み制(定員20名)として、定員を変更して実施した。周知は広報のみで行った。	C	1人でも多くの方が早期発見、早期治療に繋がるよう、歯科医師会と受診方法の検討が必要。各医療機関での実施に移行することも継続して検討していく。	健康づくり課

ウ 一般介護予防事業(口腔)

目的:適切な口腔清掃と健口体操の普及啓発により、高齢者の口腔に対する関心を高める。 内容:口腔に関する講座・相談の実施	指標 口腔に関する講座の延参加者数(人)	目標値 800	850	900	950	1000	○公民館等で行う口腔講座 ・「フレイル予防で健康長寿」3会場 延41人 ・出前講座 19回 延287人 ○ミニデイサービスでの講座 1回 延16人 ○いきいき運動コースでの講座 4回 延82人 ○後期高齢者健診低栄養フォロー支援(口腔支援含む) 実22人 ○日常生活支援総合事業「おいしく食べよう歯つばい訪問(訪問C)」 口腔訪問件数:延47人	B	通いの場や各公民館で講座を行うなど、地域に出向き、口腔ケアの周知を図った。また、後期高齢者健診受診者への低栄養防止支援では口腔環境の改善に関する内容も取り入れ、口の健康から体の健康につながるよう、個別支援を行った。 「介護予防・日常生活支援総合事業」の1つ、自立支援・重度化防止の推進対策として管理栄養士や歯科衛生士による訪問支援を強化し、要介護状態への移行を防ぐ支援を行った。今後も地域高齢者支援センターと連携し、オーラルフレイルについての普及啓発を充実させるとともに、個別の状況に合わせて支援の充実を図る。	高齢介護課
----------------------------------------------------------------	-------------------------	------------	-----	-----	-----	------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------



健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)										
取組分野 6 感染症										
評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	目標値			
感染症に関する注意報、警報等の情報提供	100.0%	100.0%	100.0%	100%	100%		100%			
高齢者インフルエンザ予防接種の接種率の向上	43.2%	42.4%	45.0%	60.2%	50.4%		48%			
新型インフルエンザ等対応訓練の実施	年1回	年1回	年1回	—	—		年1回			
重点目標 <感染症の正しい知識の普及啓発>										
基本施策 ○感染症などについての正しい知識の普及啓発										
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	AB CD	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 普及啓発の実施	指標	HPの感染症情報更新数(回)					・情報が入り次第、随時、HP、緊急情報メールを活用し、市民に予防啓発等を実施するとともに、神奈川県が公表する市内の感染者数状況について、ホームページの掲載方法を工夫し、市民へよりわかりやすく、タイムリーに周知をした。 緊急情報メール(コロナ):5回	A	感染症の蔓延防止のため、より多くの市民に情報を提供するためにも緊急情報メールや市公式LINEを利用した情報発信を迅速に行っていく。	健康づくり課
目標:感染症に関する情報を市民が得る。 内容:感染症に関する情報を随時、ホームページで更新して発信	目標値	随時	随時	随時	随時	随時				
	実績値	10	17	14	16					
イ 普及啓発の実施(乳幼児等)	指標	4か月児健診で予防接種についての説明(4か月児健診受診率(%))					新生児訪問時には今後の予防接種のスケジュールについて説明し、さらに、全健診の問診時に予防接種や感染症予防について、確認し説明を実施。予防接種が進んでいない場合は診察医師からも必要性について説明している。	A	今後も感染症予防の必要性について、丁寧に説明し、感染症予防及び予防接種の接種率の向上に努める。	こども家庭支援課
目標:乳幼児がかかりやすい感染症やその予防に関する情報を市民が得る。 内容:新生児訪問や4か月児健診時個別面接や集団教育で実施	目標値	100	100	100	100	100				
	実績値	99.4	97.4	97.2	99.4					
基本施策 ○予防接種助成による感染症予防事業の実施										
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	AB CD	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 予防接種事業の実施										
a) 乳幼児から20歳未満の予防接種	指標	麻疹・風しん(混合・単独)(一期)ワクチンの接種率(%)					乳幼児健診における問診や各医療機関における接種勧奨により、接種率は高水準であった。 対象者数:849人、接種者数:821人	A	接種率向上のため、引き続き医療機関とも連携し、接種勧奨を行う。	こども家庭支援課
目的:疾病予防ができる。 内容:疾病予防のため予防接種法に基づく、乳幼児から20歳未満の予防接種を実施	目標値	100	100	100	100	100				
	実績値	94.3	93.0	90.4	96.7					
b) 65歳以上の季節性インフルエンザ予防接種	指標	ワクチン接種率(%)					市民の利便性等を考慮し、秦野伊勢原医師会、平塚市医師会、足柄上医師会だけでなく個別医療機関と契約することでワクチン接種率の向上を図った。新型コロナウイルス感染症の影響が、接種率は昨年引き続き高水準であった。	A	市民の多くが感染症対策を行い、インフルエンザの流行が収まっている中で、インフルエンザワクチン接種の重要性を再度を考え、必要な方が接種できる体制づくりを行う。	健康づくり課
目的:季節性インフルエンザ予防ができる。 内容:65歳以上の季節性インフルエンザ予防接種の実施	目標値	44.0	45.0	46.0	47.0	48.0				
	実績値	42.4	45.0	60.2	50.4					
c) 高齢者用肺炎球菌予防接種	指標	65歳のワクチン接種率(%)					市民の利便性等を考慮し、秦野伊勢原医師会、平塚市医師会、足柄上医師会だけでなく個別医療機関とも契約することでワクチン接種率の向上を図った。 経過措置は2019年3月末が期限だったが、全国的に接種率が伸びず、現行の取扱いを2023年度末まで5年間延長する方向になった。 (H29年度の接種率:48.4%)	A	肺炎の重症化予防のための肺炎球菌ワクチン接種について、新型コロナウイルスワクチンとの接種間隔も踏まえた周知を行うことで、接種しやすい体制づくり及び接種率の向上を図る。	健康づくり課
目的:肺炎予防ができる。 内容:高齢者肺炎球菌予防接種の実施	目標値	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0				
	実績値	43.7	40.4	42.8	42.3					
基本施策 ○新型インフルエンザ及び新興感染症に関する情報収集と対応訓練の実施										
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	AB CD	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 危機管理体制の構築										
a) 平時からの新興感染症対策(情報収集)	指標	研修会や会議等への出席数(回)					・県及び医師会が主催する会議に参加し、関係機関と課題共有を図った。 ・対策本部会議(21回)へ出席し、各課との情報共有を図りながら、感染症の拡大防止のため、市民への周知に努めた。 ・令和2年度から開始した市内公民館等での除菌水(微酸性次亜塩素酸水)無償配布は継続しています。配布量9,992L(令和3年度) ・新型コロナウイルスワクチン集団接種の円滑な実施に向けて秦野市医師会、ワクチン接種推進課と協力し、集団接種に保健師も従事した。	A	引き続き、庁内関係各課や、県および医師会等の関係機関との連携を強化し、感染症対策を継続していく。	健康づくり課
目標:危機時に関係機関と連携協力できる関係を築く。 内容:平時からの新興感染症対策及び情報収集の実施	目標値	—	—	—	—	—				
	実績値	3	10	28	25					





健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性 Ⅲ 生活習慣病の重症化予防										
取組分野 2 生活習慣病										
評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	目標値			
特定健康診査受診率の向上	33.8%	34.2%	33.6%	30.6%	31.6%		40%			
特定保健指導終了者割合の増加	18.5%	16.6%	14.2%	17.9%	18.5%		26%			
特定保健指導対象者割合の減少	9.8%	9.7%	9.9%	8.7%	8.9%		8.5%			
※確定値										
重点目標 <生活習慣病の重症化を防ぐ>										
基本施策 ○特定健康診査及び市民健康診査の受診率向上のための取組										
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
<b>ア 普及啓発事業</b>										
a) 特定健康診査未受診者への受診勧奨	指 標	電話勧奨者の特定健康診査受診率(%)					・特定健診の「まだら受診者」1,869名に受診勧奨はがきを送付、そのうち電話番号のある対象者675名へ電話勧奨を実施(国保連在宅保健師) ・40～54歳で、特定健診が未受診かつ、内科の通院をしていない3,134名に健康状況不明者へ受診勧奨はがきを送付。 ・県の糖尿病未病改善モデル事業対象98名及び70歳～74歳で過去3年間特定健診未受診かつ通院をしていない健康状況不明者1,571名へ受診勧奨電話を実施。	A	国保連在宅保健師の協力により業務が効率化したため、次年度も依頼予定。	国保年金課
目的:特定健康診査受診率を向上する。 内容:健診対象者への個別通知及び未受診者に対する受診勧奨の実施(特定健康診査)	目標値	8	8	9	9	10				
	実績値	2.5	3.8	12.6	28.5					
b) ショッピングモール等での普及啓発	指 標	普及啓発の人数と回数(人/回)					・イベントは、イオンショッピングモール(74人)のみ普及啓発活動を実施。 ・健康サポート講座(11回、137人)、グッバイ内臓脂肪(全8回、48人)、血管イキイキ食生活のすすめ(5回、44人)にて、受診促進の声掛けや健康相談等を実施した。 ・「薬の講演会」(1回、19人)、「シルバー骨密度測定会」(1回、40人)、「低栄養予防講座」(1回、11人)、「未病センターはだの健康相談会」(6回、26人)や「健康バス」(5回、166人)、「糖尿病予防講座」(1回、20人)等の講座に出向き、直接特定健診の受診勧奨が出来た。	B	特定健康診査の周知徹底に合わせて、健診の必要性まで伝えるため、受診のメリット、未受診のリスク等を周知する方法を検討していく。また、健診のみではなく、保健指導の利用にもつなげられるよう工夫していく。	国保年金課
目的:特定健康診査受診率を向上する。 内容:イベント、健康講座・相談会等での健診受診の必要性について普及啓発を実施。ポスター、パンフレットの配布や個別面接	目標値	2,100人 28回	2,200 28回	2,300 29回	2,400 29回	2,500 30回				
	実績値	2,469人 29回	2,140人 27回	556人 13回	585人 40回					
イ 特定保健指導の実施	指 標	特定保健指導対象者のうち初回面接実施率(%)					特定指導対象者人数/初回面接実施者: 879人/160人 (令和2年度:867人/130人) ・特定保健指導は、個別と集団で実施。 ・感染対策と利便性を考慮して、新たに、集団サポートでは「オンライン講義」を計画したが、申込はなかった(4回:0人)。 ・新たに、西公民館・サンライフ鶴巻を会場に加えた。 ・特定保健指導の案内チラシ裏面に、健康講座の案内を掲載したことで、講座出席後に、特定保健指導に繋がった(5人)。 ・各健康サポート講座の参加者のうち、特定保健指導対象に対し、承諾を得て講座同日に初回面接を行った(7人)。 ・集団サポートでは国保連の支援事業を利用し「内臓脂肪測定」をインセンティブに設定し5回実施。	B	・結果発送数が少ない時期(8.9月)よりも多い月(6月)の開催数を増やし、効率的な集客へ繋げる。 ・新たに、南・東・南が丘公民館も追加し、利便性の向上により、初回面接参加者の増加を狙う。 ・他の健康講座の受講時に、同意を得て、その場で特定保健指導を実施する方法は、次年度以降も継続。 ・オンライン初回面接は、個別サポートの選択肢として継続する。 ・集団サポートでは、国保連合会の協力による「内臓脂肪測定」を継続し、新たに「糖化度測定」と「肌年齢測定」をインセンティブにレディースデーとして実施する。 ・新たに、エクササイズと保健指導を同時に設定するなど、運営の工夫して魅力ある「特定保健指導」を実施していく。	国保年金課
目的:生活習慣病、および予備群の減少を図る。 内容:特定保健指導対象者へ、保健師・管理栄養士がメタボリックシンドロームに着目して、3か月以上の生活習慣改善支援の実施	目標値	20	21	22	23	24				
	実績値	14.9	15.8	15.0	18.2					
ウ 健康ポイントプログラムの実施	指 標	アンケートで「健康ポイントラリー参加後、よい変化があった」割合(%)					・国民健康保険の納税通知書と併せて、6月に全世帯へ応募用紙を配付。 ・参加者は、自ら目標を立て実践している人や、健診を受診した人が多く見られた。 ・前年度に引き続き、自宅で取り組める運動・食事のリーフレットの実践もポイントの対象とした。 ・特定保健指導のちらし裏面にポイントラリーの案内を掲載し、各講座時にも積極的に周知した結果、応募件数が倍増した。 応募者:274件(R2:130件)	A	楽しく健康づくりに取り組める機会となるよう、引き続き周知徹底や関係各課との連携を図っていく。	国保年金課
目的:特定健診の受診率の向上及び健康づくりの取り組みを実践する人を増やす。 内容:各健(検)診や健康教室の参加、健康づくりの取組をした者に対してポイントを付与(平成30年度から事業開始)	目標値	50	50	50	50	50				
	実績値	85.4	73.5	79.2	86.1					
エ 巡回型健康測定事業(健康バス事業)	指 標	健康測定会に参加者数(人)					東海大学の協力により、感染対策を講じて実施し、公民館5か所で開催ができた。参加者数は限られるが、30歳代から70歳代まで幅広い年齢層が参加し、「自分の健康状態がよくわかった」「生活習慣を見直せた」等、健康への意識付けとなった。開催回数:5回、149人(R2年度:1回、25人)	A	公民等で実施することで、近隣の市民に呼びかけることができ、働き世代がアクセスしやすい環境が整う。今後も、近隣の小学校等を通じて周知して開催するなど、引き続き、若い世代の参加者を増やし、生活習慣を見直すきっかけづくりへつなげる。	健康づくり課
目的:特定健診の受診率の向上及び健康への意識を高め、正しい生活習慣の動機づけを行う。 内容:東海大学健康学部との協働により、公民館等で健康測定(骨密度や体組成測定)を実施	目標値	150	150	150	150	150				
	実績値	170	187	25	149					

基本施策		○生活習慣病の重症化予防のための取組					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題と今後の対策(方向性)		
市の主な取組(事業名)		年度									
内容		目標値・実績値等	H30	R1	R2	R3				R4	
ア 生活習慣病重症化予防事業											
a) HbA1c6.5%以上に対する受診勧奨		指 標	受診者数の割合(%)					令和3年度の電話かけ対象者88人のうち、49人は、既に医療機関に受診済み、残り12人が受診につながった。今年度より、電話が繋がらない場合等は文書による受診勧奨と糖尿病重症化予防のための資料を併せて送付している。また、75歳から79歳の後期ドック及び後期高齢者健診の対象者に対しても健康づくり課と協力して電話でのフォローアップを実施している。	A	糖尿病重症化予防のため、引き続き電話によるフォローアップと電話不通の場合の文書及び資料送付を行う。その後のフォローアップを課題とする。	国保年金課
目的:医療機関に受診できる。 内容:レセプト等より、特定健康診査受診者でHbA1c 6.5%以上の未受診者に対する電話受診勧奨		目標値	26	27	28	29	30				
		実績値	27.3	33.3	32.4	30.8					
b) かかりつけ医と連携した生活習慣改善プログラム		指 標	生活習慣が改善したと申告した人の割合(%) (食事・運動)					・レセプト及び特定健診結果から糖尿病性腎症の2期・3期の者を対象に(97名)、保健指導案内を送付し、7名の申込があった。かかりつけ医が記入した「保健指導確認証明書」をもとに、専門職による保健指導を半年間、実施した。 (R2年度:9名) ・新たに、後期高齢者に対象を拡大して、糖尿病性腎症重症化予防事業を実施した。	A	対象者全員から、生活習慣が改善したとの結果となった。今後も同様の取り組みを行い、糖尿病重症化予防を進めていく。	国保年金課
目的:生活習慣が改善する人を増やす。 内容:かかりつけ医で治療を継続しながら生活習慣改善を目指すプログラムの実施		目標値	66	67	68	69	70				
		実績値	85	78.6	55.5	100					
イ 生活習慣病予防事業(保健事業)											
a) メタボリックシンドロームの改善、予防のための講座(再掲)		指 標	講座参加者の中で、特定保健指導対象者の参加率(%)					適度な食事のとり方、生活習慣病予防のための正しい知識が学べ、日常生活でも取り入れやすい内容で実施。 実施回数:5回 ・参加者41(延45人)のうち、10人が特定保健指導対象者(24.4%)。(参加者10人は、特定保健指導対象者全体879人のうち、1.0%の割合で、前年度と同等だった。) ・参加者が、昨年比で減少した要因は、本講座が基礎的な内容で、改善を目指す意欲的な人は病態編へ流れたため。 ・本講座をきっかけに特定保健指導に7人が参加したことは大きな成果と言える。 ・調理実習をしないことから、調理に関する啓発はレシピと調理の工夫、管理栄養士のコメントを記載したリーフレットを発行し、情報提供した。 作成回数:6回(各100枚)	C	講座を通して適度な食事のとり方等を学び、メタボリックシンドロームの予防・改善につなげていく。本講座は、特定健康診査受診者を対象にしているが、特定保健指導が必要な人の参加の割合を引き上げていきたい。令和4年度は、年6回開催予定。	健康づくり課 国保年金課
目的:食事の適量を知り、望ましい食行動を学ぶことができる。 内容:メタボリックシンドロームの改善と予防のための食事を学ぶ講座の開催 (事業名)血管イキイキ食生活におすすめ(メタボ編) (対象)特定健康診査受診者		目標値	40	45	50	55	60				
		実績値	34.3	56.1	42.9	24.4					
b) 病態別の料理講座(再掲)		指 標	病態別の料理講座の参加者数(人)					病態別は糖尿病、高血圧症、脂質異常症としてテーマを絞って実施。今年度は、脂質異常症については、LDLと中性脂肪で分けて実施したことで、より参加者に合った情報提供を実施した。病態別の講話や個人ワークで自分自身を見つめ、生活習慣病の重症化予防につながる内容とした。 ・密を避けるため定員を12名とした。 ・調理実習が実施できないため、料理レシピ集の配布や、料理動画の放映した。 実施回数6回延63人(R2年度:3回37人)	A	引き続き、講座内容としては基本的な内容を中心にしながら、さらに深く知りたい人は個別相談関わるなど、生活習慣病予防につなげていく。他の講座でのフォローなども行う。令和4年度は、年6回開催予定。	健康づくり課 国保年金課
目的:生活習慣病の重症化を予防するための料理のポイントがわかる。 内容:病態別(糖尿病編、高血圧症編、脂質異常症編)料理講座の開催 (事業名)血管イキイキ食生活におすすめ(病態別) (対象)一般		目標値	60	60	60	60	60				
		実績値	51	39	37	63					
c) HbA1c 5.6%以上への生活習慣改善講座		指 標	HbA1c5.6%以上が生活習慣改善講座の参加率(%)					・対象者(HbA1c5.6%以上):4,850人 そのうち、講座参加者:105人(2.2%) (R2:対象者4,899人、参加者43人) ・全講座における参加人数(実)157人 そのうち、対象者105人(66.9%) (R2:全講座受講(実)139人のうち対象者43人で30.9%) ・食事と運動に関するリーフレットを発行し、特定保健指導内で活用した他、HP掲載及び窓口にて配架(作成回数:6回) ・HbA1c6.5%以上の未受診者へは糖尿病重症化予防の電話支援を実施。 [各講座のHbA1c5.6%以上の参加状況] 健サポ(実):79人中、52人 血管イキイキメタボ編(実)34人中、22人 脱メタボ(実)30人中、16人 血管イキイキ病態別(実)45人中、30人 糖尿病予防講座は、HbA1c6.1~7.0未満に対象を絞って実施(実)25人	C	・講座については、周知方法や内容を工夫し、HbA1c5.6%以上の参加者を継続的に増やしていく。 ・今年度から開始した「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」事業に合わせて、働き世代からの糖尿病の重症化予防を重点に、該当者を支援できる体制について検討していく。	健康づくり課 国保年金課
目的:自分自身の健康状態を知り、生活習慣を改善する人を増やしていく。 内容:HbA1c5.6%以上の者への生活習慣改善講座の開催 (血管イキイキメタボ編、健康サポート講座、脱メタボ(グッバイ内臓脂肪)、血管イキイキ病態別編、糖尿病予防講座)		目標値	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5				
		実績値	5.7	4.8	0.9	2.2					
d) 日常生活動作を増やすための講座		指 標	アンケートで「実践する」割合(%) (実施済除く)					実施回数:19回(健康サポート11/脱メタボ8) 参加者:185人(健康サポート137/脱メタボ48) (令和2年度:11回、120人) 【健康サポート講座】 ・実施回数11回、参加者数137人(延)、79人(実)。「実践する」と回答121人(88.3%)。 ・申込者が多かった回は、感染予防から2回に分けて追加開催で対応。 ・緊急事態宣言中で、8.9月を中止した代替で「始める!広がる!はだの健康スタイル特別号」を参加予定者に郵送。 【脱メタボ健康講座】 ・実施回数8回。参加者数48人(延)、30人(実)。「実践する」と回答47人(97.9%) ・「筋力アップと活動量増やす」の他、「食生活と運動」、「有酸素運動の実技」の3テーマで、新たな講師も加えて実施した。 ・食事と運動に関するリーフレットを発行し、講座内での活用した他、HP掲載及び窓口にて配架し、広く情報提供。(作成回数:7回)	A	【健康サポート講座】 希望者が多く参加できるように、広い会場を選択し募集人数を25名程度に増やす。自分に合った日時や講座を選択できるように、3種類の案内を掲載する。また、「抽選」→「先着順」と表示し、講座参加を促す。 【脱メタボ健康講座(グッバイ内臓脂肪)】 からだチェック+食生活編、身体活動編、エクササイズ編の3種類のコースを用意し、年間9回実施予定。日常生活動作を増やし、増やした日常生活動作を継続できるように、3コースのセット受講を推奨していく。	健康づくり課 国保年金課
目的:日常生活の動作が今より増える人を増やす。 内容:日常生活動作を増やすための講座の開催 特定健康診査受診者対象(健康サポート講座:4種類) 特定保健指導対象者(脱メタボ健康講座)		目標値	80	82	84	86	88				
		実績値	80.9	91.7	82.5	90.8					